

## 会議の概要

---

### 構成員

- ◆研修部会構成員
    - ・研修部会構成員名簿
- 

### 議事

- ◆協議
    - 令和2年度宮城県教職員研修計画（案）について
    - 大学等との連携協力による研修について
    - 初任者研修及び中堅教諭等資質向上研修について
- 

### 概要

- ◆令和2年度宮城県教職員研修計画（案）について
  - 校長及び教員としての資質の向上に関する指標「みやぎの教員に求められる資質能力」と各研修内容に対応させることが必要であるため、内容のバランスや重点化すべき内容を精査し、次年度に向けて見直した。
  - 令和2年度の研修実施に向けて、研修の目的を明確にすることを改めて意識しながら研修内容を検討した。研修終了後には研修の目的が達成されたのかを確認するための効果検証を行い、見直しを図りながら効果的で質の高い研修とする。
  - 教員が研修を受講しやすい環境を整える必要があり、そのための方法の1つとして、ICTを活用した研修の実施を予定している。次年度はeラーニングコンテンツの作成や、サテライトweb研修に向けた試行などの準備を行う。
- ◆大学等との連携協力による研修について
  - 大学等との連携協力により行った研修

中学校技術・家庭科（技術分野）研修会	宮城教育大学
高等学校地歴科・公民科研修会	宮城教育大学
小学校体育科研修会	仙台大学
中学校・高等学校保健体育科研修会	仙台大学
小学校外国語活動・外国語研修会	東北学院大学
中学校・高等学校英語科研修会	東北学院大学
高等学校工業教育技術研修会（ロボット制御基礎）	東北工業大学
小・中学校スクールミドルリーダー養成研修会	宮城教育大学教職大学院
高等学校・特別支援学校スクールミドルリーダー養成研修会	宮城教育大学教職大学院
  - 大学等との連携協力により行った研修の成果
    - ・ 教員養成段階の学生の資質能力向上に向けて意識高揚を図る機会となった。
    - ・ 指導案の作成ポイントや実際の授業で配慮することなど、実際の学校現場目線での視点を獲得する機会となった。

- ・ 教員養成段階の学生が、学校現場の課題や教師の実情が把握できる機会となった。
  - ・ 今までの自身の教師観を振り返り、現職教員としての使命感が養える機会となった。
  - ・ 学生視点の意見等を聞き、アドバイスすることで、教員育成の観点等を再認識できる機会となった。
- 今後の方向性
- ・ 本県の未来を担う子供たちを育てることを仕事とする教員を教育界全体で育成するという姿勢を今後も意識し、大学等との連携協力による研修の充実を図っていく。
  - ・ 研修の内容や開催時期や日数等については、事前に十分な調整を行い、受講者の負担軽減や学生の参加しやすさに配慮した研修環境を整える。
  - ・ 教科外の教育に関する幅広い内容も視野に入れた連携協力を検討していく。
  - ・ 教員養成段階の学生が、実際の教員の姿や学校現場の実情を体験・体感できるよう、教員と学生が共に学べる企画を提案していく。

◆初任者研修及び中堅教諭等資質向上研修について

- 初任者の研修を2年間から3年間にしたことにより（1年目は基礎基本を学ぶ、2年目は課題を設定し、解決を図る、3年目自ら選択した研修を受講し振り返る）基礎形成期の研修が充実した。
- 現状の初任者研修の質を落とさずに、夏季休業中の研修の精選が求められていることや被災県の教員として子供たちにどう向き合うかを自覚させることが重要であることなどの課題に対応するため、研修内容を見直した。
- 基本研修、実践研修、選択研修について、中堅教諭の資質向上に資する内容かどうかの観点で改善を図る。